

2. 加西市水道事業の概要

2. 1 加西市水道事業の沿革

加西市水道事業は、昭和29年に創設認可を取得して事業経営を開始した。その後、数次の拡張を経て、直近では第7次拡張事業の変更届出を申請している。

下表に、加西市水道事業の沿革を認可申請における計画諸元の観点から整理した。

表2.1 加西市水道事業の沿革

名 称	認可年月日	給水開始年月	事業費 (千円)	給水人口 (人)	1日最大給水量 (m ³ /日)	1人あたり (L)
創 設	S29. 10. 18	S30. 4	20,866	4,700	564	120
” 第1回変更	S34. 7. 1	S36. 4	974	同上	同上	同上
第1次拡張	S35. 2. 18	S35. 11	4,060	6,300	1,575	250
” 第1回変更	S37. 12. 27	S39. 4	10,365	同上	1,260	200
” 第2回変更	S39. 12. 23	S42. 4	27,887	同上	1,575	250
第2次拡張	S43. 6. 1	S43. 10	128,100	8,000	2,160	270
第3次拡張	S44. 3. 31	S46. 4	618,937	16,000	5,760	360
” 第1回変更	S45. 2. 19	S45. 7	同上	同上	同上	同上
第4次拡張	S47. 3. 31	S48. 4	705,000	20,000	5,700	285
” 第1回変更	S48. 6. 16	S49. 4	同上	同上	同上	同上
第5次拡張	S49. 10. 31	S50. 4	2,130,000	37,000	18,500	500
第6次拡張	S54. 3. 14	S54. 4	1,540,000	49,500	17,100	345
第7次拡張	H2. 1. 22	H1. 6	7,930,385	59,900	24,100	402
” 軽微な変更届出	H23. 2. 3	H23. 4	2,640,000	47,600	17,600	370
合 計			15,756,574			

表2.2 認可と給水開始

名称	S28~37	S38~47	S48~57	S58~H4	H5~14	H15~24
創設	●					
〃 第1回変更		●→				
第1次拡張		●				
〃 第1回変更		●→				
〃 第2回変更		●→				
第2次拡張			●			
第3次拡張			●→			
〃 第1回変更			●			
第4次拡張				●→		
〃 第1回変更				●→		
第5次拡張				●		
第6次拡張					●	
第7次拡張						●
〃 軽微な変更届出						●

● 認可年月 → 給水開始年月

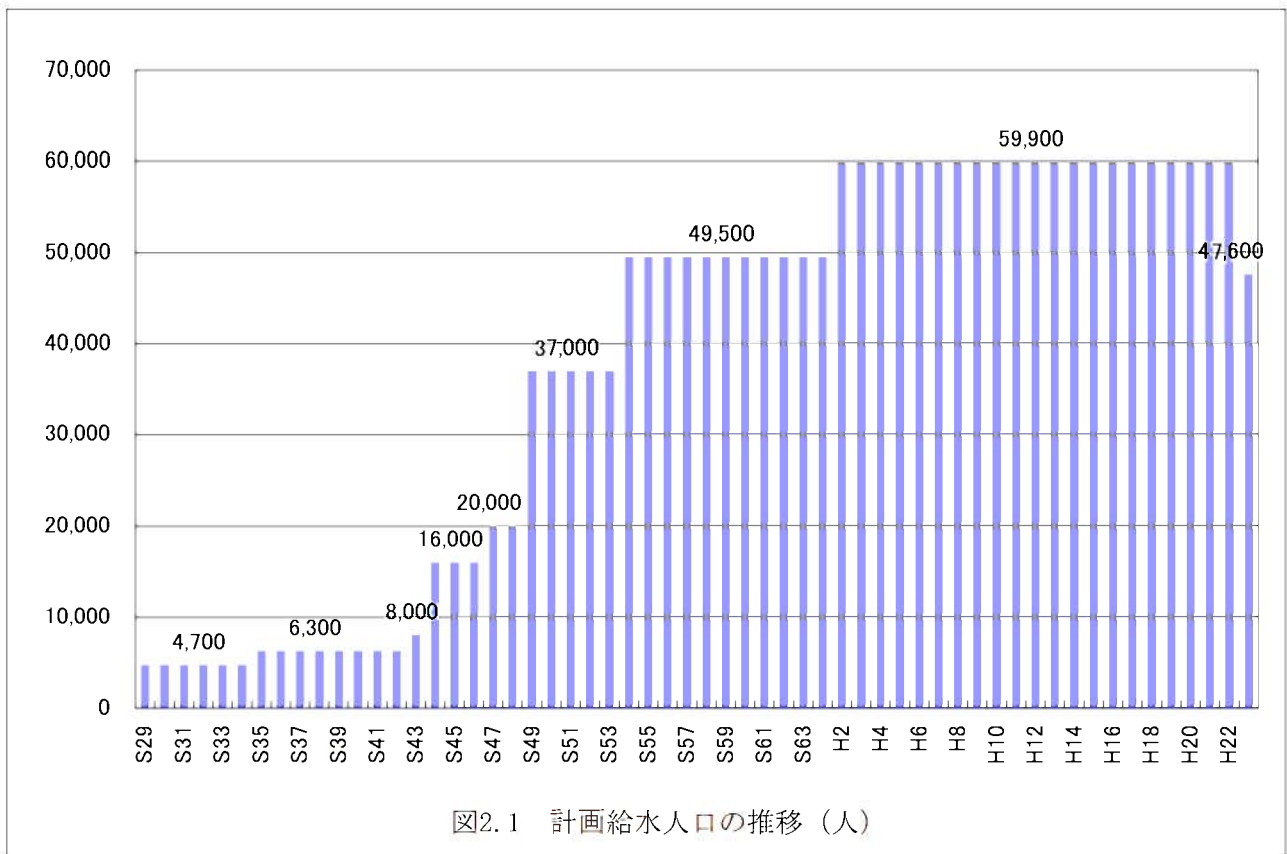


図2.1 計画給水人口の推移 (人)

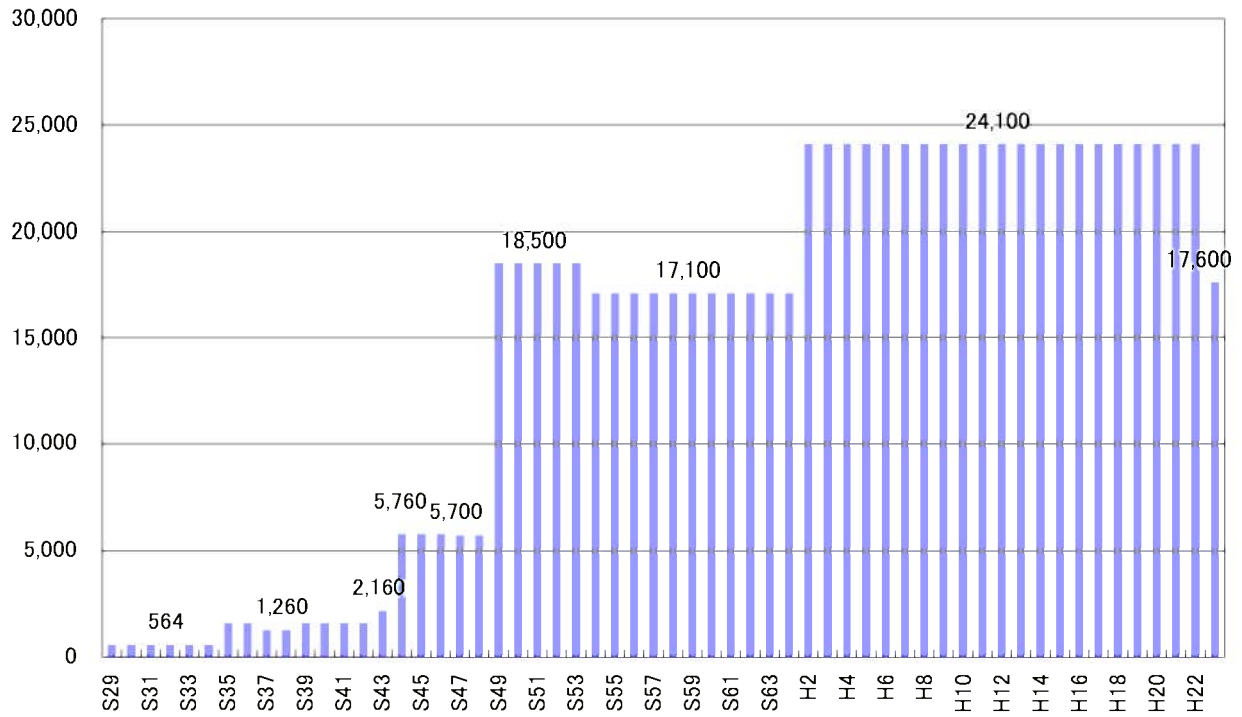


図2.2 計画1日最大給水量の推移 (m3/日)

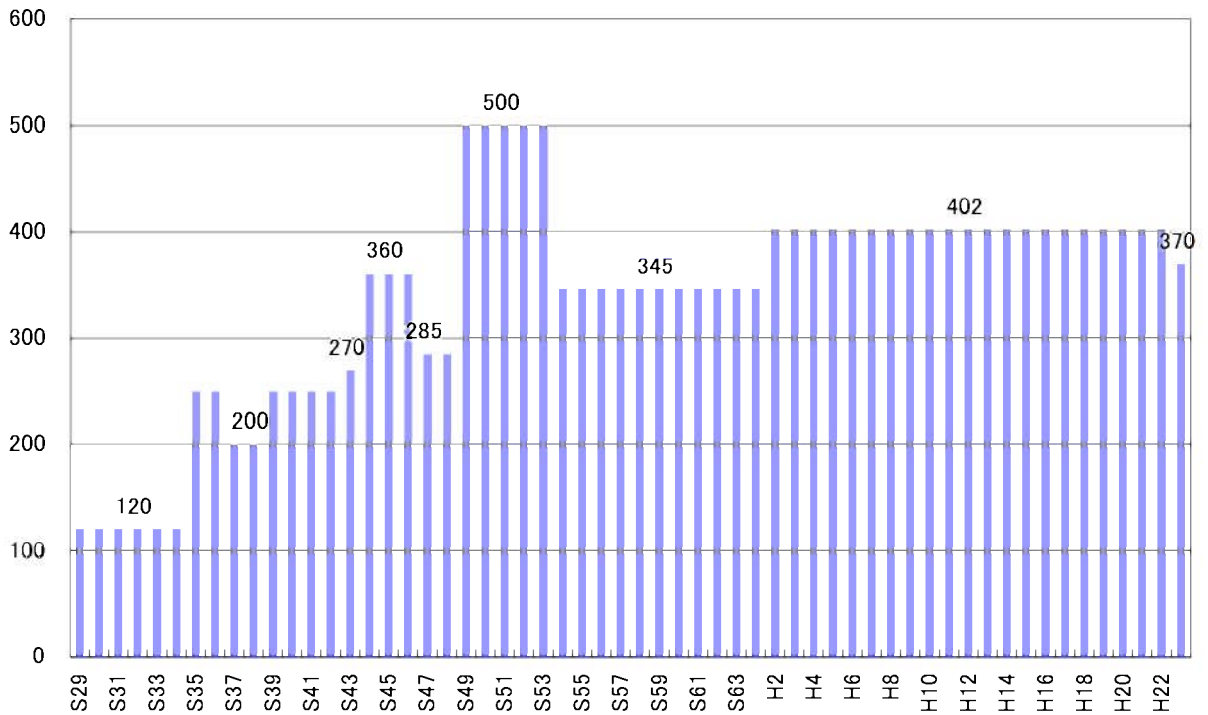


図2.3 計画1人1日最大給水量の推移 (L)

2. 2 加西市の主要水道施設

1) 主要水道施設一覧

加西市の主要な送配水施設について整理する（加西市水道第7次拡張事業 変更届出書より）。

表2.2 加西市水道の主要施設 (1/3)

名称	HWL LWL	規模・構造	備考
送水施設			
1. 瀬加送水ポンプ場	111.0	送水ポンプ井：SUS製 6.0×3.0×深3.0 V=54m ³ 2池	市川町用水供給
	108.0	送水ポンプ：φ150×3.34~3.35m ³ /分×80~87m×75kW 3台	計画受水量 5,100 m ³ /日
		送水ポンプ室：1棟	
		送水管：DIP-A φ200 20.0m	
		DIP-K φ200 18.5m	
		送水管：DIP-A φ350 1,144.0m	
		SP φ250 15.0m	
		SUS φ250 6.7m	
		DIP-K φ200 28.5m	
		DIP-K φ150 3.9m	
	SUS φ150 11.2m		
2. 瀬加加圧ポンプ場	177.3	加圧ポンプ井：RC造 6.0×10.0×深4.0×2連 V=500m ³ 1池	
	173.3	加圧ポンプ：φ150×3.2~3.3m ³ /分×80m×75kW 3台	
		加圧ポンプ室：1棟	
		送水管：DIP-A φ350 500.0m	
3. 小谷ポンプ場	97.5	加圧ポンプ井：RC造 V=70m ³ 1池	
	94.5	加圧ポンプ：φ65×0.71m ³ /分×75m×15kW 2台	
		加圧ポンプ室：1棟	
		送水管：DIP-A φ200 25.1m DIP-A φ150 300.0m	
4. 河内ポンプ場	124.8	加圧ポンプ井：RC造 3.0×4.0×深2.8 V=33m ³ 1池	
	122.0	加圧ポンプ：φ100×1.0m ³ /分×64m×18.5kW 2台	
		加圧ポンプ室：1棟	
		送水管：DIP-T φ150 467.2m DIP-S II φ150 55.5m	
5. 大柳ポンプ場		加圧ポンプ：φ40×0.06~0.23m ³ /分×21.8~33.5m×1.5kW 2台	
		加圧ポンプ室：1棟	

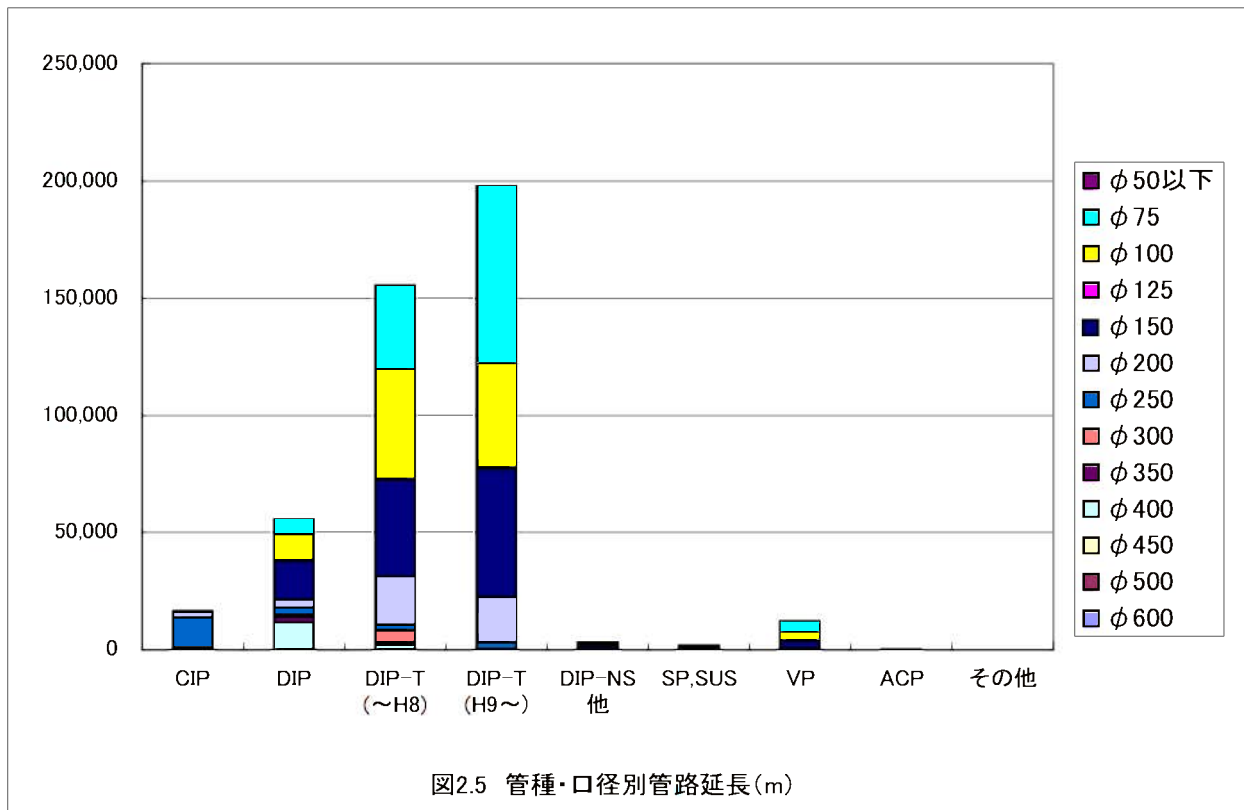
表2.2 加西市水道の主要施設 (2/3)

名称	HWL LWL	規模・構造	備考
送水施設(つづき)			
6. 万願寺ポンプ場	130.1	加圧ポンプ井：RC造 3.4×5.4×深0.8 V=15m ³ 1池	
	129.3	加圧ポンプ：φ50×0.24m ³ /分×100m×11kW 2台	
		加圧ポンプ室：1棟	
		送水管：DIP-A φ75 200.0m	
配水施設			
7. 釜坂第1配水池	245.0	配水池：RC造 8.8×11.4×深2.5×2連 V=500m ³ 2池	
	242.5	送水管：DIP-A φ250 1,482.3m	
8. 釜坂第2配水池	163.6	配水池：PC造 外φ14.8(内φ10.2)×深8.0 V=650m ³ 2池	
	155.6		
9. 古坂第1配水池	110.5	配水池：RC造 11.4×8.8×深2.5 V=250m ³ 2池	
	108.0		
10. 古坂第2配水池	113.4	配水池：RC造 15.5×15.5×深4.3 V=1,000m ³ 1池	
	109.1		
11. 小谷配水池	152.5	配水池：RC造 6.5×9.2×深2.5 V=150m ³ 2池	
	150.0		
12. 寺山配水池	111.0	配水池：PC造 φ25.0×深9.0 V=4,400m ³ 1池	兵庫県用水供給
	102.0		計画受水量 8,800 m ³ /日
13. 河内配水池	181.0	配水池：RC造 4.5×6.0×深3.0×2連 V=150m ³ 1池	
	178.0		
14. 万願寺配水池	207.9	配水池：SS製 6.0×8.0×深3.5 V=170m ³ 1池	
	204.3		
15. 明神山配水池	128.0	配水池：PC造 φ29.1×深8.0 V=5,300m ³ 1池	兵庫県用水供給
	120.0		計画受水量 3,700 m ³ /日
16. 配水池計装設備		配水池計装設備：水位計、流量計、テレメーター等 1式	

表2.2 加西市水道の主要施設 (3/3)

名 称	HWL LWL	規模・構造								備 考
配水施設 (つづき)										
	CIP	DIP	DIP-T (~H8)	DIP-T (H9~)	DIP-NS他	SP, SUS	VP	ACP	その他	計
φ 600	0	192	0	0	0	0	0	0	0	192
φ 500	0	0	0	0	0	18	0	0	0	18
φ 450	972	0	0	0	0	0	0	0	0	972
φ 400	0	11,207	2,035	19	37	100	0	0	0	13,397
φ 350	0	2,666	639	367	0	62	0	0	0	3,734
φ 300	0	152	5,254	10	15	36	0	0	0	5,467
φ 250	12,481	3,202	2,396	2,771	0	211	0	0	0	21,061
φ 200	2,525	3,911	20,717	19,175	0	247	0	0	0	46,575
φ 150	39	16,486	41,483	54,928	1,930	609	3,749	97	0	119,321
φ 125	0	0	0	0	0	102	0	0	0	102
φ 100	436	11,160	47,106	44,812	895	165	3,526	130	52	108,281
φ 75	0	6,786	35,770	75,908	351	165	4,880	21	0	123,882
φ 50以下	12	0	0	0	0	0	140	0	0	152
計	16,466	55,762	155,399	197,989	3,227	1,715	12,296	248	52	443,154
比率	3.7	12.6	35.1	44.7	0.7	0.4	2.8	0.1	0.0	100.0

注) H23年度管種別・口径別延長調 (配水支管) より



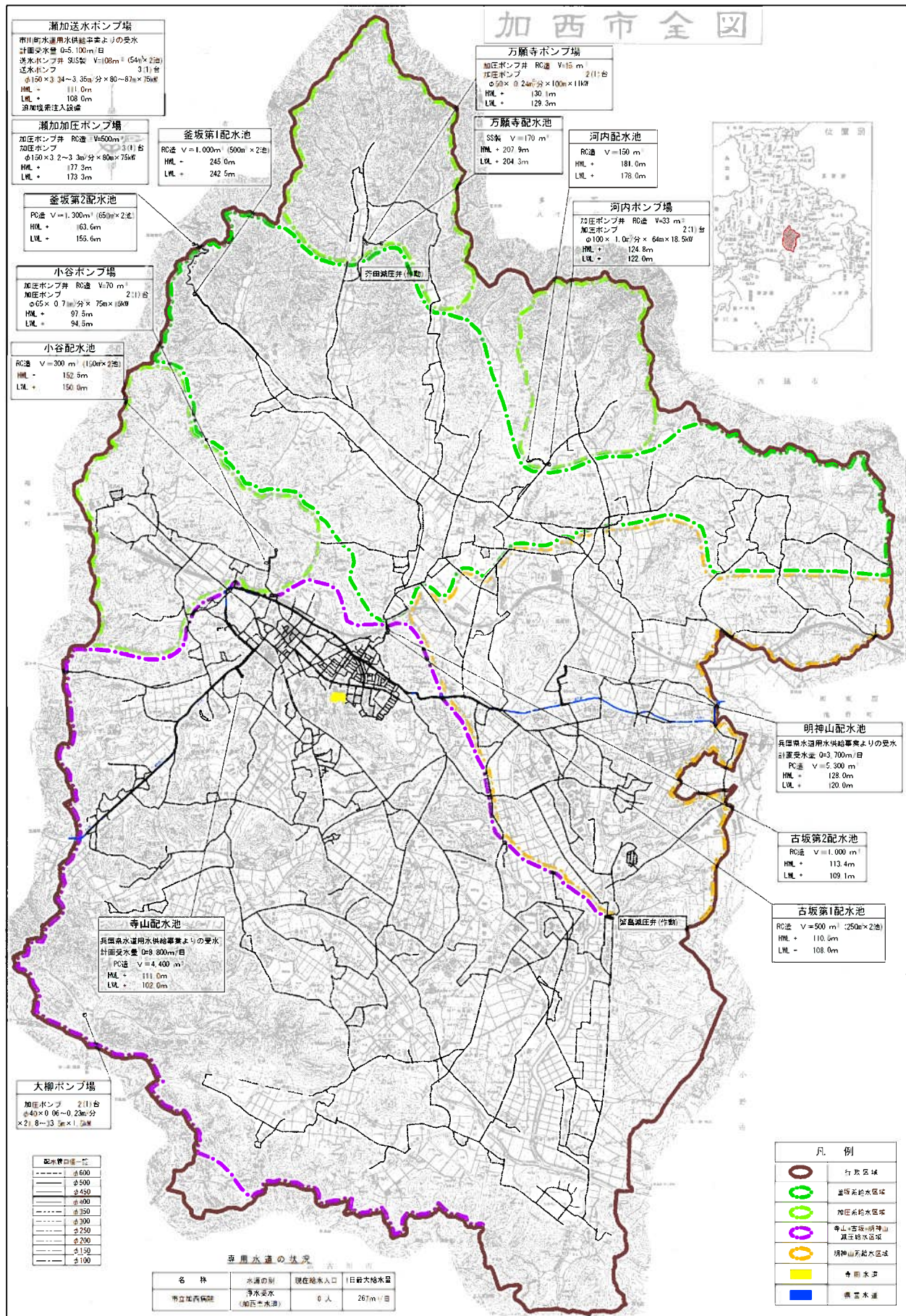


図2.6 加西市上水道施設位置図

2. 3 主要施設整備履歴

「施設台帳」等に基づき、主要機場ごとの施設・設備等に関する整備履歴を整理する。

また、整備後の経過年数が、法定耐用年数を超過している施設について着色して示す。これによれば、過半数の施設が法定耐用年数を超過して、更新時期を迎えつつあることが分かる。

1) 瀬加送水ポンプ場

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等	1968		44	40	
建 築	受水槽 (SUS製)	2003		9	50	
	建 屋	1968		44	45	
機 械	発電機 (ディーゼルエンジン)	1968		44	15	21.3
	ポンプNo1	1998	2010	2	15	17.7
	ポンプNo2	1993		19	15	17.7
	ポンプNo3	2003		9	15	17.7
電気・計装設備	計装盤 (テレメータ)	1990		22	15	15.0
	配電盤	1990		22	20	19.6
	PH計	1991		21	10	13.9
	濁度計	1991		21	10	14.2
	残留塩素計	1991	2010	2	10	13.2
	水位計	1991	2003	9	10	14.6
	電磁流量計	1993		19	10	15.6
	ポンプ操作盤No1	1990		22	20	19.6
	ポンプ操作盤No2	1990		22	20	19.6
	ポンプ操作盤No3	1990		22	20	19.6

注) 実耐用年数は施設台帳に記されていた年数である。以下同じ

耐用年数超過

2) 瀬加加圧ポンプ場

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等	1969		43	40	
建 築	受水槽	1976		36	60	
	建 屋 (受水槽)	1976		36	60	
	建 屋 (制御室)	1968		44	45	
機 械	発電機	1968		44	15	21.3
	ポンプNo1	1984		28	15	17.7
	ポンプNo2	1982	2011	1	15	17.7
	ポンプNo3	1996		16	15	17.7
電気・計装設備	計装盤 (テレメータ)	1996		16	15	15.0
	配電盤	1991		21	20	19.6

耐用年数超過

(つづき)

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
電気・計装設備	水位計	1977	2011	1	10	14.6
	ポンプ操作盤No1	1996		16	20	19.6
	ポンプ操作盤No2	1996		16	20	19.6
	ポンプ操作盤No3	1996		16	20	19.6

耐用年数超過

3) 釜坂第1配水池

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土木	管路等	1970		42	40	
建築	受水槽	1970		42	60	
	建屋	1970		42	24	
電気・計装設備	計装盤(テレメータ)	1990		22	15	15.0
	水位計	1991	2008	4	10	14.6
	タービン流量計	2000		12	10	15.6

耐用年数超過

4) 釜坂第2配水池

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土木	管路等	1983		29	40	
建築	受水槽	1982		30	60	
	建屋	1982		30	45	
機械	定流量弁	1997		15	8	
電気・計装設備	計装盤(テレメータ)	1988		24	15	15.0
	水位計	2012		0	10	14.6
	電磁流量計	1988		24	10	15.6

耐用年数超過

5) 万願寺ポンプ場

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土木	管路等(送水管)	1979	2004	8	40	
建築	受水槽	1979		33	30	
	建屋	1979		33	30	
機械	ポンプNo1	2004		8	15	17.7
	ポンプNo2	2004		8	15	17.7
電気・計装設備	計装盤(テレメータ)	1990		22	15	15.0
	配電盤	1990		22	20	19.6
	水位計	1991		21	10	14.6
	残留塩素計	1991	2005	7	10	13.2

耐用年数超過

(つづき)

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
電気・計装設備	電磁流量計	2012		0	10	15.6
	ポンプ操作盤No1	2004		8	20	19.6
	ポンプ操作盤No2	2004		8	20	19.6

耐用年数超過

6) 万願寺配水池

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等 (配水管)	1979		33	40	
建 築	配水池	1979		33	30	
電気・計装設備	水位計	1979	1998	14	10	14.6

耐用年数超過

7) 芥田減圧弁

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等	1979		33	40	
機 械	減圧弁	1979	1999	13	17	19.4
電気・計装設備	計装盤 (テレメータ)	1990	1999	13	15	15.0

耐用年数超過

8) 河内ポンプ場

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等 (送水管)	1990		22	40	
建 築	受水槽	1976		36	30	
	建 屋	1976		36	30	
機 械	発電機	1990		22	15	21.3
	ポンプNo1	1990		22	15	17.7
	ポンプNo2	1990		22	15	17.7
電気・計装設備	計装盤(テレメータ)	1992		20	15	15.0
	配電盤	1992		20	20	19.6
	水位計	1992		20	10	14.6
	残留塩素計	1992	2012	0	10	13.2
	電磁流量計	1992		20	10	15.6
	追塩装置	1990		22	10	10.4
	ポンプ操作盤No1	1992		20	20	19.6
	ポンプ操作盤No2	1992		20	20	19.6

耐用年数超過

9) 河内配水池

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等 (配水管)	1992		20	40	
建 築	配水池	1992		20	30	
電気・計装設備	水位計	1992		20	10	14.6

耐用年数超過

10) 明神山配水池

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等	1998		14	40	
建 築	受水槽	1998		14	60	
	建 屋	1998		14	45	
電気・計装設備	計装盤(テレメータ)	1998		14	15	15.0
	水位計	1998		14	10	14.6
	電磁流量計	1998		14	10	15.6

耐用年数超過

11) 繁昌減圧弁

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等	2000		12	40	
機 械	減圧弁	2000		12	17	19.4

耐用年数超過

12) 大柳ポンプ場

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等	1990		22	40	
建 築	建 屋	1977		35	45	
機 械	加圧ポンプ	1997		15	15	17.7
電気・計装設備	計装盤(テレメータ)	1990		22	15	15.0
	電磁流量計	1990		22	10	15.6

耐用年数超過

13) 寺山配水池

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等	1976		36	40	
建 築	受水槽	1976		36	60	
	建 屋	1976		36	45	
電気・計装設備	計装盤(テレメータ)	1976		36	15	15.0

耐用年数超過

(つづき)

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
電気・計装設備	水位計	1976		36	10	14.6
	電磁流量計	1976		36	10	15.6

耐用年数超過

14) 小谷ポンプ場

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等 (送水管)	1971		41	40	
建 築	受水槽	1985		27	60	
	建 屋	1971		41	45	
機 械	ポンプNo1	2012		0	15	17.7
	ポンプNo2	2001		11	15	17.7
電気・計装設備	計装盤(テレメータ)	1990		22	15	15.0
	配電盤	1990		22	20	19.6
	水位計	2012		0	10	14.6
	残留塩素計	2012		0	10	13.2
	ポンプ計装盤	1991		21	20	19.6
	電磁流量計	2012		0	10	15.6

耐用年数超過

15) 小谷配水池

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等 (配水管)	2006		6	40	
建 築	配水池	1971		41	60	
	建 屋	1971		41	45	
電気・計装設備	水位計	2012		0	10	14.6

耐用年数超過

16) 古坂第1配水池

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等	1968		44	40	
建 築	受水槽	1968		44	60	
	建 屋	1968		44	24	
電気・計装設備	計装盤(テレメータ)	1990		22	15	15.0
	水位計	1991		21	10	14.6
	タービン流量計 (配)	1999		13	10	15.6
	タービン流量計 (受)	2000		12	10	15.6

耐用年数超過

17) 古坂第2配水池

資産区分	施設名	整備年度	更新年度	経過年数	法定耐用年数	実耐用年数
土 木	管路等	1969		43	40	
建 築	受水槽	1969		43	60	
	建 屋	1969		43	45	
電気・計装設備	タービン流量計（配）	1999		13	10	15.6
	タービン流量計（受）	2001		11	10	15.6

耐用年数超過

2. 4 現場写真記録

1) 瀬加送水ポンプ場



全体外観



受水槽



発電機、計装盤及びポンプ操作盤



ポンプNo.1～No.3



変電設備



計装設備 (PH計、濁度計、残塩計)



電磁流量計

(現地調査メモ)

- ・屋外主要設備： キュービクル×4面 (受電盤、動力変圧器盤(1), (2)、電灯変圧器盤)、低圧盤、SUS製受水槽 (森松)、電磁流量計
- ・屋内主要設備： 自家発 (手動)、水質計器、陸上ポンプ (3台、うち2台ローテーション)、盤×7面 (計装盤、テレメータ盤、〇〇盤、No1送水ポンプ盤、No2送水ポンプ盤、No3送水ポンプ盤、加圧ポンプ操作盤)
- ・建 屋： 2階建て (2階は旧宿直室など)
- ・資産区分： 場内の流量計含めて下流側が加西市、流量計より上流側は市川町の資産
- ・接続管： 近年、石綿管を更新したところである
- ・送水ルート： 土砂崩れ等のおそれがある。
- ・受水・送水量： 市川用供より5,100m³/日 (計画) を受水している。
- ・浄水方法： 急速ろ過方式 (市川町)
- ・検討事項： 釜坂第2配水池で兵庫県水を受水できれば、この系統施設は不要となる。

2) 瀬加加圧ポンプ場



全体外観



建屋（受水槽、制御室）



発電機



ポンプNo.1～No.3



計装盤及びポンプ操作盤



配電盤

(現地調査メモ)

- ・屋外主要設備： キュービクル×4面
- ・屋内主要設備： 自家発（手動、日立1969）、陸上ポンプ（3台、うち1台予備）、盤×5面
（1号、2号、3号加圧ポンプ盤、切換盤、計装盤）
- ・建 屋： 平屋建て
- ・維持管理： 自家発電設備のメンテナンスは月1回行っている。設備は古い。
- ・受水槽： RC造、500m³、半地下式、躯体劣化（エフロレッセンス等あり）
- ・検討事項： 流量計がないので設置することが望ましい。（DIP φ350）
落雷がしばしばある。

3) 釜坂第1配水池



全体外観



配水池上屋内部



テレメータ盤

(現地調査メモ)

- ・規模・容量： RC造、500m³×2池、半地下式、躯体劣化（エフロレッセンス、漏水跡、モルタル剥離あり）
- ・屋外主要設備： テレメータ盤（流量、水位）
- ・送水管： 斜面配管
- ・配水区域： 直接の給水区域を有していない（釜坂第2配水池の容量確保）

4) 釜坂第2配水池



全体外観



配水池計装盤



電磁流量計室



水位調整弁室

(現地調査メモ)

- ・規模・容量： PC造、650m³×2池（2槽式のPCはここだけ）
- ・減圧機能： 元々は減圧水槽であり、S58年に現施設を築造した。
- ・屋外主要設備： 電磁流量計、水位調整弁（森田鉄工）
- ・屋内主要設備： 配水池計装盤（計装室内）

5) 万願寺ポンプ場



全体外観



ポンプNo.1～No.2



計装盤及びポンプ操作盤



残留塩素計

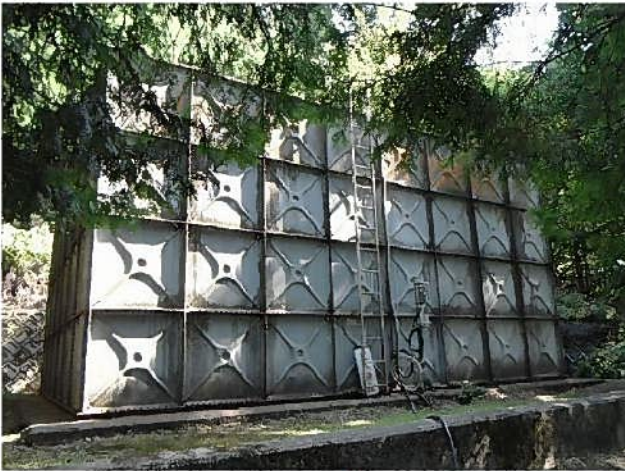




(現地調査メモ)

- ・屋内主要設備： 陸上ポンプ（2台、1台予備）、盤×2面（加圧ポンプ盤、テレメータ盤）、残塩計
- ・屋外主要設備： 配水流量計、流入電動弁
- ・建 屋： 平屋建て
- ・検討事項： 釜坂第2配水池の残圧2～3kgfを活用した圧送システムに変更したい。

6) 万願寺配水池



全体外観



水位計

(現地調査メモ)

- ・規模・容量： 鋼製、170m³
- ・維持管理： アクセスするのにポンプ場より徒歩で数分かかる。
- ・留意事項： 更新の優先度高い。

7) 芥田減圧弁



全体外観



減圧弁



テレメータ盤



配水圧力発信器盤

(現地調査メモ)

- ・屋外主要設備： 配水圧力発信器盤、水圧計、テレメータ盤、残塩計、減圧弁φ75
- ・水圧設定： 水圧計の指示では約6kg/cm²である。1kg程減圧しているとのこと。
- ・設置年度： 1999年に設置している。

8) 河内ポンプ場



全体外観



自家発電機



ポンプNo.1～No.2

(現地調査メモ)

・ 来 歴 :

ゴルフ場の補償工事により、配水池とともに20年程前に整備した。

・ 屋内主要設備 :

自家発（自動起動）、陸上ポンプ（2台、うち1台予備、1975）、残塩計、盤×3面（主幹盤、ポンプ制御盤、テレメータ盤）

・ 建 屋 :

CB造り、平屋建て、地下受水槽

・ 検討事項 :

配水池の残圧を有効利用した圧送システムに変更したい。ただしインバータ制御はあまり好ましくない、とのこと。

・ 留意事項 :

ポンプ規格が大きく、現在5時間程度の運転となっているが、更新時にはダウンサイジングに配慮する。



テレメータ盤、ポンプ制御盤等



残留塩素計

9) 河内配水池



全体外観



配水池



配水池上部



水位計



配管室内

(現地調査メモ)

- ・規模・容量： RC造、150m³、外面吹付塗装
- ・屋内主要設備： 流量計、ポンプ場との伝送は有線による。

10) 明神山配水池



全体外観



配水池



電気・薬注室



計装テレメータ盤等



残留塩素計

(現地調査メモ)

- ・規模・容量： PC製、5,300m³、1槽式、1999年築造、HWL+128m、LWL+120m
- ・建屋： 平屋別棟、県水流量計室、市計装室
- ・屋外主要設備： 緊急遮断弁、流量計、地震計
- ・屋内主要設備： 盤×3面（緊急遮断弁操作盤、受電・動力盤、計装テレメータ盤）、残塩計
- ・緊急遮断弁： 町内でこの配水池のみ設置されている。Φ400幹線に設置されている。
- ・需要量： 日平均で4,000m³/日程度であり、1日分以上の容量がある。これは、工業団地計画を見越した容量である。

11) 繁昌減圧弁



減圧弁室マンホール



減圧弁

(現地調査メモ)

- ・設置場所： 道路下に設置されている。
- ・水圧設定： 1次圧8kgfから6kgfに減圧している。
- ・検討事項： 流量計と圧力計を整備し、芥田のようにテレメータを整備したい。

12) 大柳ポンプ場



全体外観



加圧ポンプ



テレメータ盤



量水器

(現地調査メモ)

- ・概要： 姫路市からの加圧給水エリアであり、需要家は約20戸、20～30m³/日程度の需要量である。
- ・屋外主要設備： 量水器、流量計、配水流量盤
- ・屋内主要設備： 加圧ポンプ（ウォーターエース2台、うち1台予備）、テレメータ盤
- ・建屋： 姫路市からの受水流量計とポンプ室は離れた所にある。RC造、平屋建て。
- ・水圧設定： 1次圧は概ね4kgf、2次圧は7kgfの設定である。
- ・検討事項： 現状の姫路市からの給水を続けるか、寺山配水池？からの給水とするか。

13) 寺山配水池



全体外観



追加塩素注入設備室



県水管理室



配電盤・テレメータ盤等



残留塩素計



配水池上部・水位計



配水池内部

(現地調査メモ)

- ・規模・容量： PC製、4,400m³、1槽式、S51年築造、HWL+111m、LWL+102m
- ・建 屋： 平屋別棟、県水流量計室、市計装室
- ・屋外主要設備： 水位計（配水池屋上、7m指示）、流量計、電動弁（通常全開、手動）
- ・屋内主要設備： 盤×3面（低圧配電盤、現場計装計器盤、テレメータ盤、TM盤以外は古い、TM盤はH元年に改良）、残塩計（0.71ppm指示）
- ・緊急遮断弁： なし

14) 小谷ポンプ場



全体外観



テレメータ盤



残留塩素計

(現地調査メモ)

- ・概要： 10年程前に陸上ポンプから水中ポンプに更新した。
- ・受水槽： RC造、地上式、70m³
- ・屋外主要設備： ポンプ制御盤
- ・屋内主要設備： テレメータ盤、残塩計 (0.65ppm指示)
- ・留意事項： ポンプ規格の選定について、更新時には適正な規格の選定に配慮する。

15) 小谷配水池



全体外観



配水池



水位計

(現地調査メモ)

- ・規模・容量： RC製、150m³×2槽、S47年築造、半地下式、HWL+152.5m、LWL+150m、躯体劣化（エフロレッセンス等あり）
- ・建屋： 配水池上部に管理棟
- ・屋内主要設備： 残塩計
- ・緊急遮断弁： なし
- ・留意事項： 1日平均で600～700m³/日の流出量があるのに対して、配水池容量が300m³であるので、12時間分の容量が確保できておらず、容量upが望ましい。

16) 古坂第1配水池、第2配水池



全体外観



古坂第1配水池 全体外観



電気室



計装盤・テレメータ盤等



水位計



古坂第2配水池 全体外観

(現地調査メモ)

- ・概要： 釜坂第2配水池からの自然流下で受水している。
- ・規模・容量： 第1配水池 RC製、250m³×2池、HWL+110.5m、LWL+108.0m、S44年設置
第2配水池 RC製、1,000m³×1池、HWL+113.4m、LWL+109.1m、S45年設置
- ・建屋： 平屋建て
- ・屋外主要設備： 残塩計、流量計
- ・屋内主要設備： 盤×3面（配水弁制御盤、計装盤、テレメータ盤）
- ・緊急遮断弁： なし
- ・留意事項： 2,500m³/日程度の流出量があるので、配水池容量が適正か。
2つの配水池は僅かに水位が異なるので、一体的に運用できる方法は。